

# ごみ減量にご協力を！ ～捨てるごみ、分ければ資源に～

平成27年度における本町の東部知多クリーンセンターへのごみ搬入量は、11,867.16トンであり、平成26年度と比較すると、1.53%の増加となりました。ごみの分別をし、資源ごみ量を増やすことで、ごみの減量化を図りましょう。

日々のごみ出しの中で、きちんと分別を行うことがごみ減量への近道です。ごみ減量のためには、一人ひとりの協力が必要です。これからも引き続き、ごみの減量化と資源化にご協力ください。

## ●問い合わせ

環境課 内線 2 8 3



## ●ごみ減量のためにできること

### ①生ごみの水分を切る

水分をきちんと切ることで、量を減らし、臭いを抑えることができます。

### ②生ごみの堆肥化

アスパなどを利用し、生ごみを堆肥化することもごみ減量につながります。

### ③ごみの分別・資源ごみを増やす

ごみの分別を行い、再利用できるものは「資源ごみ」として、各地区ごみステーションへ出しましょう。

## ●各地区ごみステーションへ資源ごみを出すと…

資源ごみ回収量に応じて、交付金として還元され、地域で行われる行事などの活動資金となります。不要となった新聞紙や空き缶、びん、ペットボトルなどは大切な資源です。

## 東浦の環境を守る基本計画 シリーズ③

みんなでつくろう！  
環境を大切にすまち・ひがしうら

新しくなった環境基本計画について全4回に渡って紹介します。

## 環境目標 2 いのちと健康を大切にす 安全のまちづくり

公害問題といえば、高度経済成長期に起きた「水俣病」「新潟水俣病」「四日市ぜんそく」「イタイイタイ病」が有名です。これらは、事業所から排出された有害物質によって大気、水が汚染されたことが原因で起こりました。

現在では、事業所からの排出が規制され大きな被害や状況の悪化はみられませんが、野焼きやごみ、近隣からの騒音といった私たちの生活によって起きる都市・生活型公害と呼ばれる苦情が多く寄せられます。

町では、大気汚染調査や水質調査、騒音測定を実施し、結果を「東浦町の環境」で公表しています。調査の結果、一部の河川やため池で水質が悪い場所がありました。

水質の悪化は、事業所や家庭からの排水が川へ流れ込むことにより起こります。今、私たちにできることを1つずつ行っていくことで河川や海の状況が良くなります。油や飲み残しなどを排水溝に流さないよう心がけ、私たちの河川や海を守りましょう。

## ●問い合わせ 環境課 内線 2 8 2

## 10月は クリーン排水推進月間・ 浄化槽強調月間

みんなでつくろう！

環境を大切にすまち・ひがしうらの実現に向けて

### 水は大事な資源です

家庭からの生活排水は、川や海の水質汚濁の主な原因となっています。

三河湾は、湾の入り口が狭いため、海水が入れかわりにくい閉鎖性水域です。そのため、河川から流れ込んだ汚れがたまりやすく、赤潮や青潮の発生原因となり、湾内の生態系に大きな影響を与えています。

### 今、私たちにできること

- ・食べ残しや飲み残しをしないようにしましょう。
- ・台所では、水切りネットを使用しましょう。
- ・皿の汚れや廃油を流さず、古布でふき取ったり、新聞紙などに吸わせたりして可燃ごみに出しましょう。
- ・洗剤は、適切な量を使用しましょう。
- ・下水道の接続や合併処理浄化槽などの生活排水処理施設の整備を進めましょう。
- ・浄化槽を効果的に長く使用できるよう、適正に管理しましょう。



一人ひとりの取り組みが大きな効果をあげます。

皆さんもできることから始めましょう。

## ●問い合わせ 環境課 内線 2 8 5